

科目名	専門演習Ⅱ SeminarⅡ						
科目担当者	墨 昌芳 SUMI Masayoshi						
単位数	4	配当年次	3年	授業形態	演習	開講学期	通年
履修学部・学科 [区分]	経営学部・経営学科 [専門教育科目 演習]					ディプロマポリシーとの関連	(3)(4)
授業の概要	<p>前期は、宮崎県が抱える観光問題に関して、各自が興味ある論文、もしくは報告書などを見つけ出し、レジュメを作成して報告してもらいます。また、教員も適宜コメントし、報告者の疑問点や理解不足な点を補っていきます。さらに、観光に携わっている方、もしくは観光に関わる自治体の方をお招きし、話を聞く機会を2度設ける予定です。後期からは、ゼミの参加者をグループ分けし、前期に学んだ知識を実際に活用してもらう機会として、グループで宮崎県の観光による地域活性化プランを考えてもらいます。また、ゼミ生は、考えたビジネス・プランを論文としてまとめ、「日本学生経済ゼミナール」に参加してもらいます。 (備考) 土日を中心にサブゼミを適宜実施し、特産品を中心とした地域活性化への取り組みを日向市の方と協力して進めていきます (任意参加)。</p>						
授業の到達目標	①観光に関する様々な知識を身に付け、ビジネスや行政の現場などで活用できるようになる。 ②日本学生経済ゼミナールを通じ研究内容やプレゼンテーション力を高め、実践的な学びの基礎的な素養を身に着ける。						
授業計画・内容	1	ガイダンス：ゼミの進め方の説明	16	学術調査・研究の方法と一連の流れ (先行研究)			
	2	文献検索方法、利用可能なデータベースの紹介	17	学術調査・研究の方法と一連の流れ (統計データの利用方法、分析方法の説明)			
	3	報告の準備：報告者の調整、次回の準備	18	学術調査・研究の方法と一連の流れ (ヒアリング調査、アンケート調査の説明)			
	4	報告と討論 (教員による発表)	19	グループ発表と討論 (第1グループ)			
	5	報告と討論 (第1発表者)	20	グループ発表と討論 (第2グループ)			
	6	報告と討論 (第2発表者)	21	グループ発表と討論 (第3グループ)			
	7	観光に携わっている方の講演及び討論 (1)	22	グループ発表と討論 (第4グループ)			
	8	報告と討論 (第3発表者)	23	インターゼミナールの説明			
	9	報告と討論 (第4発表者)	24	インターゼミナールの準備・予行練習 (第1グループ)			
	10	報告と討論 (第5発表者)	25	インターゼミナールの準備・予行練習 (第2グループ)			
	11	報告と討論 (第6発表者)	26	インターゼミナールの準備・予行練習 (第3グループ)			
	12	報告と討論 (第7発表者)	27	インターゼミナールの準備・予行練習 (第4グループ)			
	13	報告と討論 (第8発表者)	28	インターゼミナールの反省			
	14	報告と討論 (予備日)	29	観光に携わっている方の講演及び討論 (2)			
	15	前期のまとめ	30	後期のまとめ：卒論の説明			
授業外学修 (事前学修)	発表のための準備を行う (60時間程度)						
授業外学修 (事後学修)	課題を作成する (60時間程度)						
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法				評価比率		到達目標との対応
	プレゼンテーション				50%		①、②
	課題の提出 ゼミへの貢献				30% 20%		①、② ①、②
成績評価基準	秀： (評点 90 点以上) 到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優： (評点 80 点～89 点) 到達目標を高い水準で達成している場合 良： (評点 70 点～79 点) 到達目標を一定の水準で達成している場合 可： (評点 60 点～69 点) 到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可： (評点 60 点未満) 到達目標に達していない場合						
教科書	教科書は特に使用しない。研究資料 (新聞記事や最新の論文等) を必要に応じて配布する。						
参考文献	国土交通省観光庁『令和5年版 観光白書』日経印刷 (上記の観光白書は、国土交通省のホームページ上から全文無料で入手可能) 酒井 聡樹『これからレポート・卒論を書く若者のために』 共立出版 酒井 聡樹『これから学会発表する若者のために』 共立出版						
その他							